

# 当薬局における在宅患者様の 褥瘡に対する関わり

株式会社 ユアーズ

天理さなえ薬局 西川 真理

# 本日の内容

- ①施設紹介
- ②施設における薬局薬剤師の関わり
- ③個人宅における薬局薬剤師の関わり
- ④さいごに

# 在宅訪問エリア(実績)



大和郡山市、河合町、上牧町、広陵町、大和高田市、天理市に集中しているが、稀に御所市や奈良市からも依頼がある。症例発生時に場所や内容で対応薬局を振り分けて対応を行っている。

# 法人の特徴

- 共にがん緩和ケア症例をはじめとする緩和ケア症例を多く受け入れている
- 点滴製剤も対応しており、クリーンベンチを用いた無菌調整を行っている
- クーデックエイミーやシリンジェクター等の在宅用PCAポンプを用いた麻薬の持続皮下点滴の調剤や処方設計、管理を多く行っている
- 点滴ルートや針等の在宅医療における医療材料の提供、管理を行っている

# 法人の目標

GooOleよりも幅広く、amaOonより早く、faceOookより密に繋がる。ApOleのようなお洒落さは必要無し。

幅広い  
症例

スピード

密に

## 株式会社ユアーズ

事業所名称	さなえ薬局	天理さなえ薬局
開局時期	2019年4月	2021年5月
所在地	大和郡山市小泉町	天理市丹波市町
薬剤師数	2	常勤2名、非常勤2名
事務員数	2	2
平均処方箋枚数（月）	900	1000
平均個人在宅訪問回数（月）	50	60

# 施設における薬局薬剤師の関わり

---

施設規模

---

利用者 18名（70代～90代）

---

看護師 2名

< 通常業務 >

- 週に1回訪問
- 定期薬配薬と服薬指導、  
外用剤の使用量確認、残薬確認

→ 主治医へ報告、処方内容の提案

褥瘡発生の確認や外用剤の適正使用について特に要観察

# 施設における薬局薬剤師の褥瘡への関わり

急性期・慢性期であるか  
浸出液の有無  
臭い・熱感はあるのか

外用剤・ドレッシング剤の提案  
浸出液の有無に応じた混合軟膏の提案

使用後の評価  
創の変化

スタッフとの共有  
処置の回数  
処置方法の統一



## 介入例

- 施設患者様（90代 男性）
- 部位：右臀部
- デュオアクティブ®使用していたが、貼付の違和感あり。
- 毎日処置は可能。壊死組織なし。



## 介入例

- 施設患者様 (90代 男性)
- 部位：右臀部
- 1週間後、2部位のうち1部位は創の上皮化ができていると評価。  
もう1部位も創が縮小していると評価
- 処置を継続しても良いと考える旨を主治医へ報告。



## 介入例

- 施設患者様 (90代 男性)
- 部位：右臀部
- 更に1週間後の訪問で創はほぼ完治であると評価し、この部位に関する介入終了

## 個人宅における薬局薬剤師の関わり

- 開局～2023年2月1日時点
  - 一般症例 7例
  - 緩和症例 29例      うち麻薬使用 例
- 定期処方依頼
- 定期・臨時処方配薬
- 適宜使用状況確認ため電話訪問・在宅訪問
- 疼痛コントロール評価
- 症状コントロール評価
- 医療材料等の提供
- ポンプ等の手配代行

# 個人宅における 薬局薬剤師の 褥瘡への関わり

---

在宅患者介入時、褥瘡がある患者かどうかわからず

→定期服用薬剤以外に使用している外用剤・ドレッシング剤の確認。

---

介護力の確認

(訪問看護様・ヘルパー様の介入回数、家族様の介護力)

---

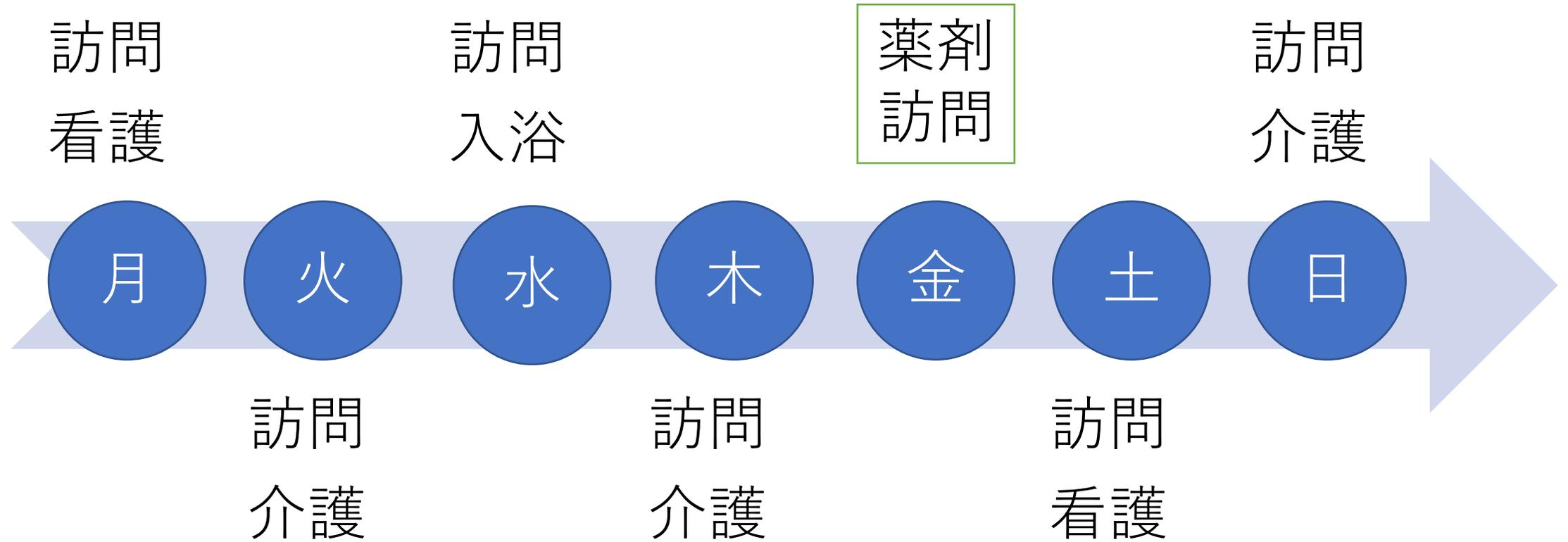
褥瘡治療に対する優先度の確認

# 個人宅における薬局薬剤師の褥瘡への関わり

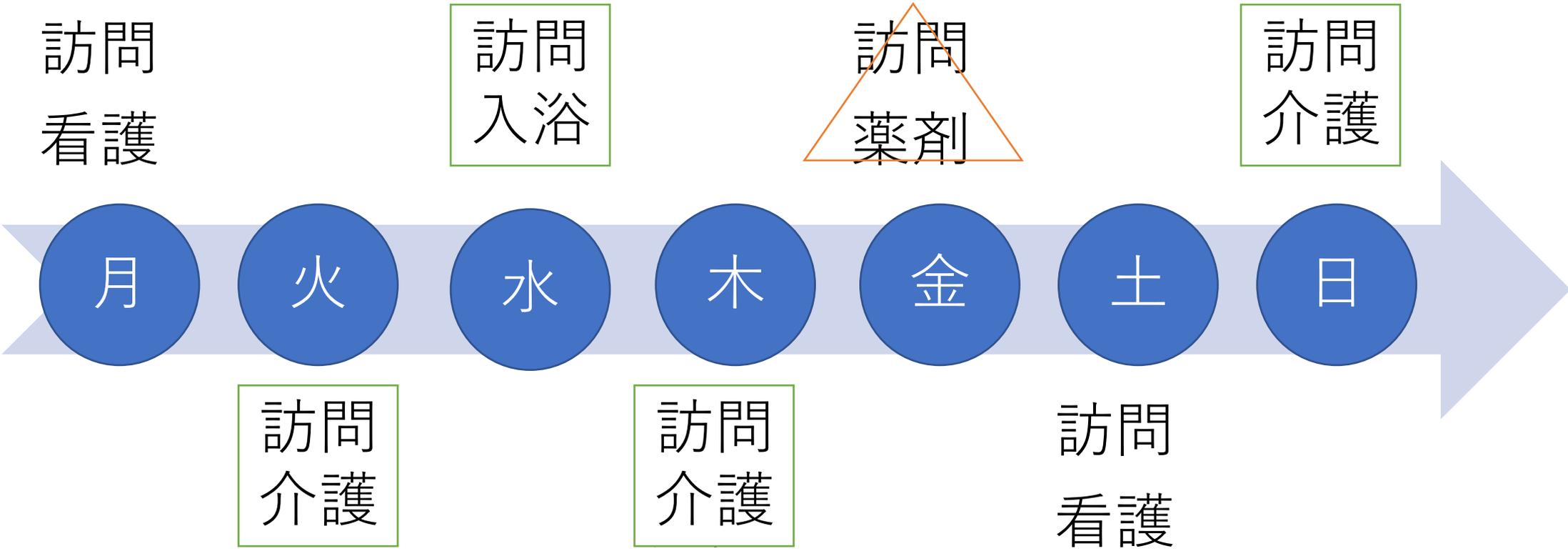
- 特に緩和ケア領域の患者様においては、予後であったり症状に応じて褥瘡処置を行うことが苦痛にとられることが少なくない。
- 複数の褥瘡部位がある患者様ではどこの部位をどこまでケアを行うのか、簡易な処置(ドレッシング剤の使用、外用剤もシンプルな処方提案)ができるように医師・訪問看護師様と話し合いを行う。
- (無理強いではなく)家族様もケアに介入できるように声掛けや外用剤使用の指導を行う。

積極的な治療を在宅で行う場合は、  
訪問看護師様が訪問する日とずらして薬剤訪問を行い、  
家族様に**薬剤の使用法に関する実技指導を行う**ように調整。

# 個人宅における薬局薬剤師の褥瘡への関わり



# 個人宅における薬局薬剤師の褥瘡への関わり





## 介入例

- すい臓がん末期（80代 男性）
- 部位：仙骨部位
- 寝たきり状態による褥瘡発生



2日後



# 介入例

- すい臓がん末期 (80代 男性)
- 部位：仙骨部位
- 寝たきり状態による褥瘡発生

# さいごに

- 当薬局ではがん・非がん患者を含めた多くの薬剤訪問を行っており褥瘡は避けては通れない。
- 褥瘡保持患者では褥瘡の治療方針をチーム内で確認を行い、医療者介入のない日では家族・本人様に**薬剤の使用方法に関する実技指導**を行っている。
- 褥瘡処置だけではなく、保湿ケア等の外用剤使用を家族様にもしてもらうことで特に緩和領域では家族様が本人様とのかかわりを増やすことで家族ケアにもつながると考える。

# さいごに

- 薬局薬剤師が褥瘡治療にも関わることで外用剤の適切な治療を行うことができ、実技指導を行うことでマンパワーの一つにもなり得ると考える。
- しかしながら、現在の週1-2回の薬剤訪問だけでは十分な創観察が自身ではできないこともある。その際には在宅医療にかかわる人との十分な連携でカバーしている。